

青森県佐井村福浦のテラ行事調査報告

The Report on Tera-ritual at Fukuura, (Sai-village, Aomori prefecture)

古川 実¹⁾

Minoru Kogawa

(キーワード：テラ 当番 ババ連中 宗教的施設)

はじめに

青森県下北地方においては、「テラ」、「テラこ」などと呼ばれる宗教的な施設が各集落に存在する。寺というと、一般的には宗派の僧侶が定住し、檀徒を持ち、仏教のお勤めを行う寺(寺院)を想起するが、「テラ」、「テラこ」は無住の堂庵であり、ムラの仏教的信仰の施設として、また、仏事に際して手向けられる念仏の伝習の場として、さらに葬具を提供するなどの役割を持った施設である。そして、その管理は、一般的にムラの婦人たちにより行われており、女性たちの憩いの場ともなっている。(以後、このような下北における宗教施設を片仮名でテラと表記する。)

本報告は、佐井村福浦を調査地とし、このような特色があるテラでの諸行事と、ババ連中などと呼ばれる婦人たちのテラに関わる活動を実地調査し記録したものである。下北地方における仏教民俗や、庶民生活の中での女性が果たしてきた宗教的な役割、あるいは女性たちの年序組織などについて、テラを通して研究しようとする基礎的な作業としたい。

1 先行研究

下北のテラを中心的なテーマとした民俗学的な研究は、今まであまり行われていない。自治体史の民俗編などに記述があるものの、信仰の中の地蔵講でテラに触れていたり、社会組織の性別年序別組織の一つであるババ連中の記述で、テラに触れたりするなど、いずれもテラの記述は断片的な内容となっている。このような中で、テラの類型化や研究上の意義などについて、ある程度言及している論考をいくつか取り上げる。

楠正弘は、『下北 自然・文化・社会』(1967 九学会連合下北調査委員会)で、下北半島地域の庶民の信仰の在り方に重点をおいた分析・論考を行い、寺院の形成過程に関して「てらこ」を取り上げた。特に北通地域の原田から福浦に至る各集落の「てらこ」とよばれる無住の堂に注目し、「てらこ」は各集落の中で重要な機能を果たしており、いわば、公民館、保育所等の役目も含まれた「寺院」であり、無住職の地帯における寺院の自然なあり方を見ることができるとした。²⁾

宮本袈裟雄は、民俗宗教と修験との関わりを研究し大きな業績を残した。下北半島における里修験の活動に関する研究もあり、それを明らかにするうえでテラと僧侶との関係に注目し、テラの形態や行事とそれに関わる僧侶の活動は、里修験者の下北地域での活動を推定させるとした。³⁾

高松敬吉は下北出身の民俗学者である。『下北文化誌』(1990 青森県高等学校PTA連合会)に、郷里の思い出を語る随筆風の文章で「ババ宿」を執筆し、そこで「寺こ」について言及した。⁴⁾ 高松はババ宿となる各集落の「寺こ」は、婆様たちの心の安息の場、信仰と仲間たちの会合の場でもあり、婆様たちのコミュニティーを発揮する場面でもあった。

青森県史編さん民俗部会は、2001年から2003年にかけて下北地方の総合的な民俗調査を行い、その成果を2冊の民俗調査報告書と『青森県史 民俗編 資料下北』に編集・刊行している。それらには、節立てをしてテラが取り上げられている。民俗部会長である小池淳一は、民俗編において、「テラは念仏をはじめとする死者供養の空間であり、宗派を問わずに死者供養のための念仏が日常的に習得され、実際の死者をめぐる儀礼の執行の場ともなっている。テラには集落の日常生活文化のレベルの種々の仏教的な要素が集約的に示されている点に特徴がある」とし、テラを通してムラの宗教、信仰の様相を考察することができることも述べている。⁵⁾

これら諸論から、テラは民俗研究のうえで多様な視点から分析が可能であり、特に庶民の仏教的な信仰の様相を知るうえで、また、老年女性たちの社会関係を知るうえで、意義ある研究対象となる可能性があるといえよう。ともあれ、テラに関する調査資料の蓄積が必要である。

2 福浦の概況

福浦は、佐井村の南に位置し、北隣りが長後、南隣りが仏ヶ浦を隔てて牛滝である。津軽海峡、陸奥湾に面する入江

1) 青森県立郷土館 学芸課副課長 (〒030-0802 青森市本町二丁目8-14)

で、福浦川の河口から川沿いに集落が形成されている。「邦内郷村志」（寛政年間1789～1801）に家数6、海苔を産すると記され、明治初年の「新撰陸奥国誌巻第五十七」では、家数11と記している。⁶⁾ 産土神社は稲荷神社である。笹沢善八編『佐井村誌』に福浦の村社は稲荷神社で、正徳4年（1714）勧請と記している。

現在の戸数は約46戸。生業は漁業が中心であり、平成24年度の『佐井村勢要覧』によれば、福浦漁港登録漁船数は76隻で、大半が3トン未満の動力漁船である。⁷⁾ 前沖での漁、磯回りの魚貝、海草、ウニが主な漁獲であるという。

下北の各集落では、社会組織の特色として性別年序別組織が顕著であることが知られているが、福浦においても同様の組織が認められる。神事は男性が執行し、福浦神楽（大神楽系の獅子舞）をかつては若者会が行っていた。また、若者会よりも年齢幅が広い福浦芸能保存会があり、歌舞伎ほかの芸能を継承し諸行事で披露している。仏教的な行事などは、テラを拠点として女性が執行しており、詳細は後述する。一方、ムラ行事は、部落を4班（かつては5班、家数の減少により班が減った）に分けており、その班に当番が割り振られる。各班では、さらに班内の順番により役割分担している。順番は家並み順が基本である。稲荷神社の祭事執行も1年ごとの当番が務める。家並み6軒で当番となり、その中でさらに細かく役割分担する。

田中姓が多く、普段は各家を家印や屋号で呼ぶ。当地の地芝居「福浦の歌舞伎」は、青森県無形民俗文化財に指定（昭和59年7月指定）されており、稲荷神社の祭礼などで福浦芸能保存会員により演じられている。

3 福浦のテラ

(1) 施設設備

福浦のテラは、「大慈院」の名称があるが、普段はテラ、テラこと呼ばれている。現在、集落の中央部の稲荷神社境内に連続する敷地に設置されている。かつては、テラの周辺が福浦の墓地であったが、昭和52年に墓地は海側の集落の入口に移転し、併せてテラも改修した。その際の寄付者名簿に若者会、六大地蔵婦人会の名がある。

約5間四方の木造の建物で、12畳程の広間の奥に一段高くして祭壇が設けられている。祭壇の中央には観音、向かって左側に地蔵、右側に薬師を祀る。観音の手前には、釈迦涅槃の掛図と、葬儀に貸し出される十三仏の掛図を箱に収納し保管している。大数珠もダンボール箱に入れて、この部屋に保管している。広間と祭壇との間仕切りの柱には、左に「随縁普濟諸群品」、右に「観音最勝妙智力」と書かれた掛板があり、「大慈院」と書かれた額が鴨居に掲げられている。

建物の東側に玄関、便所、台所、物置が付属しており、物置には葬式道具が置かれている。位牌堂がなく、位牌は各家で祀っている。佐井村では、原田から磯谷までは佐井の寺院に位牌を保管しているが、長後、牛滝ではテラに位牌を保管しているという。

福浦のテラの開設年代を知る資料は、今のところ確認していない。「邦内郷村志」では、福浦に芙蓉軒が所在するとの記録があるが、現在の大慈院とのつながりは不明である。「新撰陸奥国誌巻第五十七」では、寺社の所在は記されていない。

(2) テラの当番とテラに集まる人々

テラの当番は、1か月ごとに家並み順で4軒ずつあたる。当番になると家の主婦層が出ることになり、月の行事ごとに祭壇に供物をあげ、テラに来る女性の応接を行ったり、あげられた供物や賽銭管理を行ったりする。当番同士では、供物調製や料理の分担をする。

テラの当番も含め、テラを運営する女性をババと呼んでいる。テラ行事の日には、当番以外のババは、浜の仕事や家事を一区切りつけてテラに集まる。早い時間からテラに来るのは、年寄りのババなどである。年寄りもだんだん少なくなって、今は80歳近い人が多いが、昔は70歳くらいなら、みんな集まっていたという。

(3) 行事

テラの行事には、毎月定例のテラ参りと年中行事とがある。毎月、6日は百万遍の数珠回し、10日は稲荷様の日の数珠回し、15日の数珠回し、17日は翌18日の観音様のためにお経をあげる日、18日は観音様の命日の数珠回し、23日は翌24日の地蔵様のためにお経をあげる日、24日は地蔵様の命日の数珠を回す日である。15日は昔、福浦に火事があり、その日が15日だったので、以後この日をムラに災厄が無いように数珠を回す日にしたと伝えている。

年中行事には、2月15日のお釈迦様の日、春秋の彼岸、3月の彼岸明けと11月に1週間行う数珠ふき（数珠回し）がある。また、稲荷神社の祭礼・神事や各家で行う年中行事に合わせて、テラにおいても特別な供物をあげることをする。

2月15日は、お釈迦様の命日で、大きい釈迦涅槃図の掛図を祭壇中央に飾る。お釈迦様の団子といって、あんこ入りの団子をお重に盛り上げて、各自がお供えする。

春、秋ともに彼岸明けに、テラに賽銭として米を持って行く。3月25日から1週間と11月7日からの1週間に数珠ふきが行われる。浜（福浦川の橋の所、湾の真ん中あたりになる）とカミ（東の山側）とで大数珠を回し、テラに戻ってから改めて数珠を回し、終わってからみんなで茶饮みになる。ヒヤクマンベ（百万遍）ともいう。女性だけで行い、

外で行う数珠ふきには若い人も来て20人ぐらいで回している。回す回数は10回である。数珠玉の大きいのは、ホトケ様だといって回ってくると拝む。また、体の痛いところなどに南無阿弥陀仏と唱えながら当て、治るようにと願うなどする。

稲荷神社の祭礼(例大祭は4月10日)や、正月、盆など稲荷神社で神事が行われるときには、テラでも当番を中心に祭壇に灯明をつけ、お供えをあげる。一例として神様の出雲への送迎の神事をあげておく。

10月29日は神様が出雲に行き、11月29日に戻るので、それぞれ神楽をふる。昭和30年代ごろまでは、旧暦の9月29日と10月29日に行っていた。神様は悩み事を聞いて、出雲に行って悩み事を良くして戻ってくるから、ムラのみんなで願い事をして送迎するのだという。嫁を相談しに行くともいう。神楽は若者会が行うきまりだが、人数が少なくなって2、3年前から福浦芸能保存会が神楽を行っている。

この両日にテラでは、当番、ババど(ババたち)が集まっていて、祭壇に灯明、線香、お茶をあげる。各家からは、お重に小豆御飯を入れたお供えがあがる。神楽が終了すると片づけてテラを閉める。

【行事一覧】

※ テラ当番の仕事を支障なく行うために、注意点などをノートに書き留めたものを拝見させていただいた。それを整理して一覧にし、福浦のテラ行事の内容を改めて確認したい。欠けている月があったため、その部分は聞き取り調査により補った。

- 12月30日 掃除。花をたて、祭壇の打敷を正月用の金色に取り替え。餅の花(ハギ)4本に餅。松は中央右に1本飾る。
- 1月 元日 6:00 神楽の門打ち。直前に祭壇にお茶を供える(以下、お茶と記す)。
3日 夕方、打敷をはずし、普段の物に取り替え。
6日 11:00 お茶。数珠を回す。
7日 七草。
お鏡直し。シイタケ、ゴボウの醤油汁にお鏡を入れ、供えた後、いただく。きなこ餅をお宮、山の神に供え、テラには小皿に3つ上げる。
11:00 レコの膳を祭壇中央に2つ、両脇に1つずつ供える(以下、レコの膳と記す)。
11:30 お経。
- 10日 9:30 お茶。
11:30 数珠を回す。その後会食。
- 15日 9:30 お茶。
11:30 数珠を回す。その後会食。
- 17日 14:30 レコの膳。お経。前日打敷を取り替えておく。
- 18日 9:30 レコの膳。
11:30 数珠を回す。打敷をはずす。
- 23日 14:30 お茶。
15:30 お経。
- 24日 9:30 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 30日 掃除。
- 2月 6日 9:30 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 10日 9:30 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 14日 翌日のお釈迦様の日に合わせて掃除。花を取り替え、中央に掛け軸をかける。打敷は中央に大、左に中、右に小。
15:30 レコの膳。重箱に御飯3つ。はちへ汁。
- 15日 11:30 レコの膳。重箱3つ。食後、掛け軸、打敷を片付ける。
- 17日 15:30 お経。レコの膳・重箱3つ。
- 18日 11:30 数珠を回す。レコの膳・重箱3つ。
- 3月 3日 サガサンジ

- 6日 11:30 数珠を回す。
 10日 11:30 数珠を回す。
 15日 11:30 数珠を回す。
 17日 11:30 入り彼岸。数珠を回す。寺に御飯を上げる人がいるので、朝からストーブつける。打敷取り替え。
 15:30 お経。レコの膳。
 18日 11:30 数珠を回す。
 20日 11:30 彼岸中日。数珠を回す。
 23日 11:30 終い彼岸。数珠を回す。
 15:30 お経
 24日 11:30 数珠を回す。
 25日～31日 数珠ふき。
 31日 お寺総会
- 4月 5日 エビス様 前日に掃除。お茶。
 6日 9:30 お茶。
 11:30 数珠を回す。
 9日 ヨミヤ テラの祭壇の蠟燭に火を付け、お茶を供える。
 10日 9:00 お茶を供え、お神楽をふるころ、テラに待機し、ふり終わったら帰る。
- ※稲荷神社例大祭
- 15日 ノガミ様の前日につき、掃除。
 16日 ノガミ様 お茶。
 17日 16:30 お経。レコの膳。
 18日 11:30 数珠を回す。
 23日 16:30 お経。レコの膳。
 24日 11:30 数珠を回す。
- 5月 6日 9:30 お茶。
 11:30 数珠を回す。
 8日 お薬師様。お鏡餅とフロシキ餅といってモチ米を搗いて中に小豆の餡を入れたものを供える。
 10日 9:00 お茶。
 11:30 数珠を回す。
 15日 9:00 お茶。
 11:30 数珠を回す。
 17日 16:30 お経。レコの膳。
 18日 11:30 数珠を回す。
 23日 16:30 お経。レコの膳。
 24日 11:30 数珠を回す。
- 6月 5日 節供 数珠なし。お茶。ウルチ米の餅でイタヤの葉を餅の上に付けたものや、笹餅があがる。
 6日 9:00 お茶。
 11:30 数珠を回す。
 10日 9:00 お茶。
 11:30 数珠を回す。
 15日 9:00 お茶。
 11:30 数珠を回す。
 17日 16:30 お経。レコの膳。重箱に御飯。前日に餅を作り、お鏡1つ(30センチメートル)、あん入り大福餅をテラ10こ、お宮15こ、真ん中に赤色をつける。団子を中央に1つむかえ(20こ)、左右に1つむかえ(20こ)。型まんじゅうを残りで作る。
 18日 11:30 数珠を回す。レコの膳。
 23日 16:30 お経。
 24日 11:30 数珠を回す。
- 7月 1日 ムゲガラ節供 長虫がムゲル日だという。ウルチ米の餅やベゴ餅があがる。

- 6日 9:30 お茶を供える。
11:30 数珠を回す。
- 10日 9:00 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 15日 9:00 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 17日 16:30 お経。レコの膳
- 18日 11:30 数珠を回す。
- 23日 16:30 お経。
仏ヶ浦の地蔵祭があり、現地に行かない人がここに団子とまんじゅうをあげる。24日も同様。
- 24日 11:30 数珠を回す。
- 8月 6日 9:30 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 7日 七日盆 ブドウの葉を敷いた小豆御飯があがる。
- 10日 9:00 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 13日 墓参り ハギとほかの花を供える。
- 15日 9:30 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 17日 16:30 お経。レコの膳。
- 18日 11:30 数珠を回す。
- 23日 16:30 お経。レコの膳。
- 24日 11:30 数珠を回す。
- 9月 1日 二百十日 赤飯と御神酒をあげる。
11:30 数珠を回す。
- 6日 9:30 お茶を供える。
11:30 数珠を回す。
- 10日 9:00 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 15日 9:00 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 17日 16:30 お経。
- 18日 11:30 数珠を回す。
- 20日 11:30 入り彼岸 数珠を回す。
- 23日 11:30 彼岸中日 お経。
16:30 数珠を回す。
- 24日 11:30 数珠を回す。
- 26日 11:30 終い彼岸 数珠を回す。
- 10月 6日 9:00 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 10日 9:00 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 15日 9:00 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 17日 16:30 お経。レコの膳、重箱3つに御飯。
- 18日 11:30 数珠を回す。レコの膳、重箱3に御飯。
- 23日 14:30 お茶。
16:30 お経。
- 24日 9:30 お茶。
11:30 数珠を回す。

- 29日 お神楽
- 旧9月16日 ノガミ様
- 11月 6日 9:30 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 7日 秋の数珠ふき始まり。朝、お茶。
8:30 村中を数珠ふき。寺に戻り輪になって数珠を回す。その後、全員で漬け物でお茶飲み。
11:00 重箱6に御飯を取り、お宮2つ、山の神1つ、テラに3つ供える。
11:30 数珠ふき。
終了して、供えた御飯をいただいってもらう。その際、おかずを当番が2種類作っておく。
- 8日 数珠ふき2日目
8:00 お茶。
8:30 村中を数珠ふき。もどって全員で数珠を回し、漬け物でお茶を飲む。
- 9日 前日と同じ3日目
- 10日 数珠ふき4日目 初日と同じ
- 11日 〳 5日目 8日と同じ
- 12日 〳 6日目 8日と同じ
- 13日 〳 7日目 初日と同じ
- 17日 15:30 お経。レコの膳、重箱3つに御飯。
- 18日 11:30 数珠を回す。レコの膳、重箱3に御飯。
- 23日 14:30 お茶。
15:30 お経。
- 24日 9:30 お茶。
11:30 数珠を回す。
- 12月 5日 五日エビス 寺当番なし
- 6日 11:30 数珠を回す。
- 10日 11:30 数珠を回す。
- 15日 11:30 数珠を回す。
- 16日 餅つき。アズキ入りまんじゅう25 (5か所)、型まんじゅう15 (3か所)、団子30 (中央にひとむかえ、左に10こ)
- 17日 15:30 お経。
- 18日 11:30 数珠を回す。
- 23日 15:30 お経。
- 24日 11:30 数珠を回す。

(4) 観音様の日

福浦のテラの本尊は観音様であり、17、18日の観音様の日には、月ごとの行事で行われている祭壇へのお供え、お経、数珠回しが一通り行われるという。ここでは、観音様の日の行事を実見(平成25年12月17、18日調査)した内容について述べ、月ごとの定例の行事の内容把握に資することとする。

17日は、15:30からお経を行い、翌18日は11:30から数珠を回す(4月から10月までは16:30からお経を行う)。始まる1時間ぐらいには、年寄りがテラに来始める。当番は年寄りが来る前に来て供物の準備をし、冬季には部屋を温めるなどする。

観音様にレイこの膳2膳、地藏様、薬師様にレイこの膳を1膳ずつ供える。レイこの膳は、ゴレイ膳、オリコ膳ともいう。祭壇にあげる膳のことで、飯椀、汁椀、ツボ、ヒラの器と膳を一式とし、朱塗りのもの2膳、内側朱塗りのもの2膳である。ババたちで購入しテラに保管している。飯椀には御飯を盛るが、椀を動かして御飯を丸い盛に整える。汁椀にはファチヘイ汁といって、シイタケの出汁で醤油仕立てにし、豆腐とシイタケを具にしたもの。ほかに野菜のお浸し、煮染めなどをあげるが、精進料理なので肉類は出汁にも使わない。作る物は当番に任されている。小さいツボには飯をこすり付けるようにして少し置く。これは無縁仏への手向けだという。緑茶を入れた茶碗も置く。稲荷様にもお重に御飯を盛って供える。

集まった人も各自お重にお供えを入れて祭壇にあげ、終わると持ち帰る。お重には各家の家印が記されている。

17日、15:00からお経。年頭(ババのうちの年輩者)がモク(木魚)を叩き、お経(ナムフドウヤ)の先導を

し、それに合わせて集まった人がお経（ナムスゴヤから）を唱える。お経をヘッコ、ハエコなどという。ヘッコの次にイッシンチョウライを唱える。終了後、供物とお茶を分け、当番が分担して作った料理をおかずにして持ち寄りの御飯を食べる。当番の「お茶をどうぞ」という挨拶で食事を始める。

18日、11:30から数珠回しが行われる。百万遍のお経を年頭が先導して唱える。最初はゆっくりとした調子で唱え、次にモクと鉦が入って早い調子になって数珠を回す。お経が終わり先導の年頭が拝んで終了する。供物を下げ、料理を会食するのは前日と同様である。

(5) その他

福浦では葬儀は歌舞伎の館と喪家で行っており、テラでは行っていない。葬儀には僧侶を呼ぶが、死者のそばには十三仏の掛け図を掛けるものとされ、テラから掛け図を借りる。また、葬儀ではババどにより十三仏の念仏が唱えられる。

長福寺（佐井村古佐井 曹洞宗）の檀家が多く、秋回りといって、日は定まっていないが10月末ごろ住職が檀家を回る。昔は宗派の檀家だけ回ったが、現在は全戸回ってお経をあげており、お布施としてお金を出している。

まとめと課題

福浦ではテラの行事日は、年間100日ほどになる。福浦の主婦の生活のうち、三分の一はテラに関わるともいえるだろう。聞き取り調査の中で「嫁に来て、そのようにするものだと言われて、今まで（テラ参りを）続けてきている。」というお話をいただき、下北の民俗調査では、テラを中心にした調査項目が必須であることを教えられた。今後もテラに関する事例などの集積に心がけたい。なお、現時点での筆者の課題を次に列挙しておく。

- ① 下北地方の他集落のテラとの比較が必要。その際、テラと本寺との関係性、ムラにおけるテラの機能、生業基盤の違いを踏まえたテラ行事の差異などに留意したい。
- ② 津軽の地蔵堂（地蔵講）や県南の行屋との比較は可能か検討する。ムラにおける宗教的施設、集会施設の差異に留意したい。
- ③ テラをムラの女性たちの伝承の場としてとらえる必要がある。同世代同士や年序組織間のつきあいの場となっていることに留意したい。
- ④ テラを通して、ムラにおける女性たちの社会的役割や、死への対応に女性が果たす役割について認識を深めたい。

- 注 2) 楠正弘「下北の宗教」(『下北 自然・文化・社会』 1967)
- 3) 宮本袈裟雄「下北半島の里修験」(『里修験の研究』 1984)
- 4) 高松敬吉「ババ宿」(『下北文化誌』 1990)
- 5) 小池淳一「テラと儀礼」(『青森県史 民俗編 資料下北』 2007)
- 6) 『角川日本地名辞典 2 青森県』から引用。
- 7) 佐井村ホームページから『2012年度佐井村勢要覧 資料編』のデータを引用。

この調査は、青森県民俗文化財等保存活用委員会による青森県無形民俗文化財等保存活用事業の一環として行われたものです。本紀要への掲載を許可していただき、記して感謝の意を表します。

(引用・参考文献)

- 青森県高等学校PTA連合会 下北文化誌編集委員会 『下北文化誌』 1990
- 青森県史編さん室 『県史叢書 北通りの民俗』 2002
- 青森県史編さん室 『県史叢書 西通りの民俗』 2003
- 青森県史編さん室 『青森県史 民俗編 資料下北』 2007
- 青森県文化財保護協会 『新撰陸奥国誌第4巻 みちのく双書第18集』 1965
- 角川日本地名大辞典編纂委員会 『角川日本地名大辞典 2 青森県』 1991
- 九学会連合連合下北調査委員会 『下北 自然・文化・社会』 1967
- 佐井村 『佐井村誌 上巻』 1971
- 佐井村 『佐井村勢要覧 資料編』 2012
- 笹沢魯羊 『下北半島町村誌 下巻』 復刻版 1980 (笹沢善八 『佐井村誌』 1937)
- 宮本袈裟雄 『里修験の研究』 復刻版 岩田書院 2010



テラの外観



テラの内部



観音様の日の供物



レイこの膳



お経を唱える



お経終了後の会食